

21世紀型お茶の水女子大学

さまざまなプロジェクトの遂行

科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」

現代GP (文部科学省)

図書館1階の入口スペースにて、去る平成19年12月17日にスタートした「キャリアカフェ」。今回のオープンにあわせて、飲料のベンダーも新設されました。そこで、今回はこのカフェの仕掛人である、『科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」』責任者の千葉和義教授にお話を伺いました。

キャリアカフェ開設の意図をお聞かせ下さい。

来年度から本格的にスタートするキャリアプランニングの授業では、キャリアメンターと呼ばれる外部の方や先輩が講師として登場する予定ですが、例えばその前後の時間帯に飲物を片手に情報交換したり、個人的な質問をしたりする場所が欲しい、ということで場所を捜していました。ちょうどその時に、附属図書館からご協力の申し出をいただきまして、開設することができました。



するとそのキャリアプランニングの授業、ひいてはこのGPを象徴する場所として機能しそうですね。

そうですね。今回のGPのサブタイトルは「キャリアレポート放送局で育む職業意識」ですが、「自分史を書く」という考え方で出発しました。そして、大学で自分史づくりと言えば、様々な授業で提出するレポートや課外活動の情報を集積していくことが役立つのではないかと考えました。今春から開局するキャリアレポート放送局は、本学の新しいレポート管理ネットワークシステムです。教員からアドバイスをうけたり、場合によっては友人と意見交換したりといった推敲の過程を反映し、残すことも可能なシステムです。また、エッセンスのみを抽出することも可能ですので、例えば就職活動において自分がこれまで築き上げてきた自分史を企業の採用担当者に見てもらおうことで、自身のアピールを図ることも可能です。もちろん、その際のセキュリティへの配慮は万全を期しています。

客観視して言語化する習慣もつきそうですね。

その通りです。意識化という作業を通じて思考をみがくという狙いがあります。

今後の展開をお聞かせ下さい。

まずは、教員にとっても学生にとっても利便性の良いレポート管理システムの構築を目指します。その上で、優秀なレポートは読めるようにして、後輩達に当該授業の理解の一助とすることを考えています。また、最近では様々な外部資金により似た考え方の企画も多いですから、ゆくゆくはコラボレーションも考えたいですね。

なんと言っても、たくさんの先生方や学生たちに利用されていて、網羅の範囲が広がるのが鍵ですから、説明会を何度も開催する予定です。奮ってご参加下さい。

キャリアカフェ
科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」
<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/index.html>

※「現代GP (Good Practice)」は「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の通称です。文部科学省は、学生教育の質の向上など、優れた取組「Good Practice」を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、教育改革の取り組みを促進しています。「Good Practice」は、近年の諸外国の大学教育改革でも注目されている用語です。これを略して「GP」と呼んでいます。

日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

大学院教育改革支援プログラム (文部科学省)

昨年9月に「大学院教育改革支援プログラム」(文部科学省)として採択されました「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」の概要について、代表の近藤譲教授に寄稿していただきました。

昨年度まで2年間にわたって「魅力ある大学院教育イニシアティブ」(文部科学省)の支援を受けた「<対話と深化>の次世代女性リーダーの育成」プログラムでの実績を踏まえ、また、これまでの経験から見てきた問題点の解決を積極的に図ることで、国際日本学の研究と教育を更に拡張・発展させていくことが、本プログラムの目的です。

このプログラムの背景にある問題意識とは、つまり：①国際社会で活動するためには、当然、高度な国際的コミュニケーション能力が必要であること。②日本の人文系研究分野が高度な水準にあるにもかかわらず、現状では、それが国際的になかなか認知されておらず、その主な原因が、研究者の国際的伝達能力の不充分さにあるのではないかとということ。③グローバル化する今日の社会では、価値が一元化していく傾向がありますが、そうした傾向を相対化する眼差しとして、日本的思惟方法の提示が役立つに違いないということ。以上3点です。本教育プログラムは、これらの問題点の総合的な解決に向けて、人文系の大学院生の国際的コミュニケーション能力を練磨し、それと共に、日本文化研究の発信の担い手として、国際レベルでの社会・文化貢献を為すために必要な能力、知識、思考力を涵養しようとするものです。



こうした教育プログラムによって、学生は、日本学研究の最高水準の研究環境の中で学びながら、同時に、海外の大学に留学して得られるのと同程度に高度な国際性を獲得できる。即ち、本学大学院で学ぶことで、極めて高度な専門研究と国際性を身につけることができるのです。

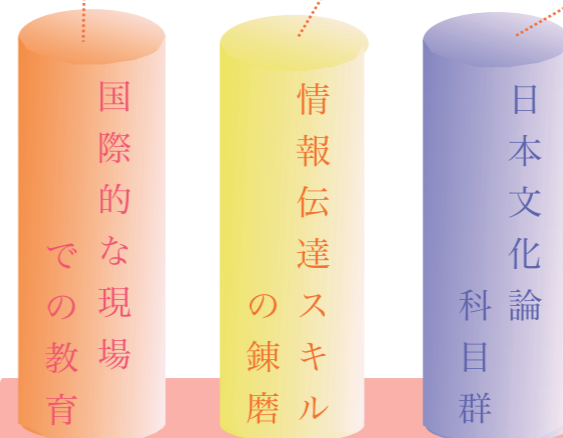
今日の国際社会では、男女が差別なしに共に社会・文化に貢献することが当然となりつつあるわけで、したがって、国内外の大学や研究機関だけでなく、文化機関や、国際政治機関等にも、ますます高い能力をもった女性の進出が期待されています。本教育プログラムによって、正に、そうした国際社会の要請に応える人材が育成されるに違いありません。

海外インターンシップやアカデミック
ディスカッションの実施

日本学研究コーパスの構築による
情報の海外発信とノウハウの学習

学際的・総合的視点から日本的思惟方法と
文化を理解するための副専攻を設置

(近藤譲 大学院人間文化創成科学研究科
基幹部門文化科学系教授)



日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成
<http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm>

日本文化研究の国際的情報スキルの育成

21世紀型お茶の水女子大学

さまざまなプロジェクトの遂行